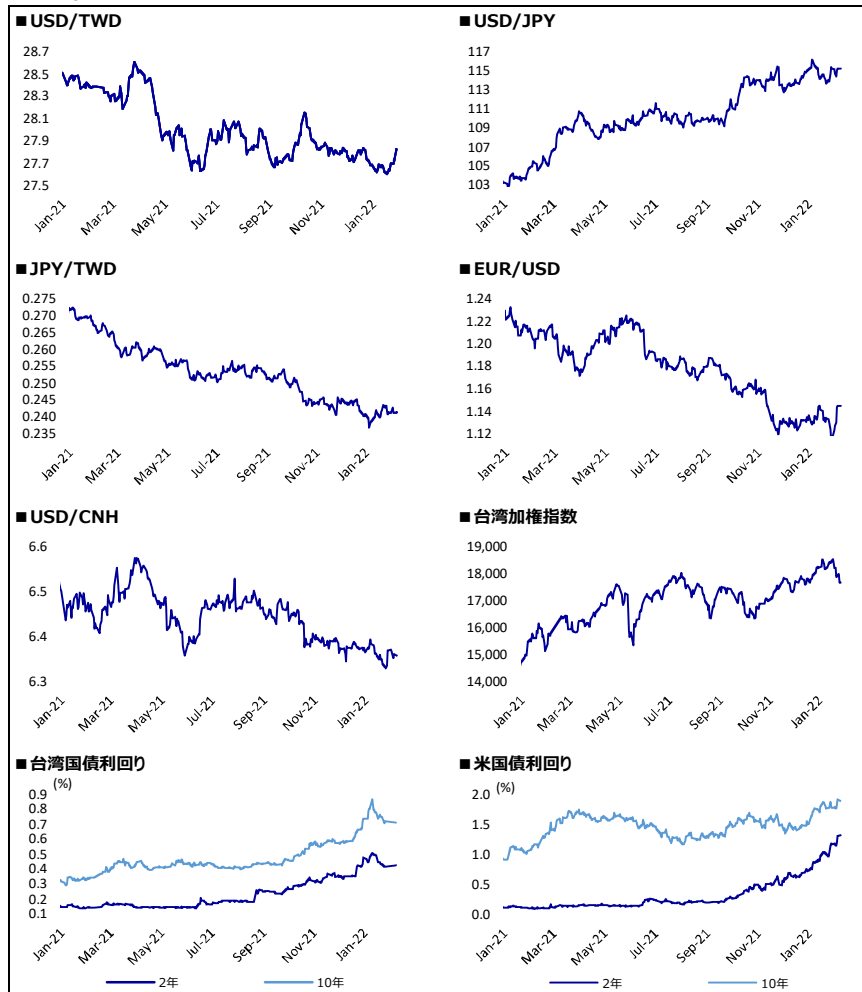


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初1/24は27.740でオープン後、春節前の輸出企業のドル売り圧力が強く、一時27.670まで下落。1/25はウクライナ情勢の緊迫化を受けアジア株が全面安となる中、台湾株も急落するが、春節を前に輸出企業のドル売り圧力が強く、ドル台湾ドルは27.70付近のレンジで推移。1/26は外国人投資家の台湾ドル売りが強まり、月末の輸出企業のドル売りと交錯するも、次第に台湾ドル売りの方が優勢となり、27.74付近まで上昇。1/27は前日のタカ派なFOMCを受け、ドル全面高となる中、輸入業者がドル買いを急ぎ、じりじりと上昇。また、台湾株式市場が春節を前に休場となっているものの、外国人投資家のドル買いも入り、27.80台に乗せた。1/28は月末ながらも春節を前に動意に乏しく、27.82付近の狭いレンジで推移し、最終的には先週比0.5%ドル高台湾ドル安の27.828で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は620.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円はほぼ変わらず。週初1/31は115.29でオープン後、日経平均の堅調な推移もあり一時115.59まで上昇するが、独1月CPIが予想を上回り、ECBの利上げ期待が高まり、ユーロ買いが強まるとつられてドルは売られ、115円台前半に。2/1は米金利の低下を受けてドル円も114円台後半まで低下。2/2は米1月ADP雇用統計が予想外の悪化に一時114.16まで急落したが、売り一巡後は114円台後半まで戻した。2/3は米金利の上昇を受けて115円手前まで上昇。2/4は米12月雇用統計が発表されると、非農業部門雇用者数は市場予想を大きく上回り、前月分も上方修正された。一方、失業率は4.0%と予想の3.9%対比上昇したが低水準を維持。平均時給も予想・前月を上回り、労働参加率も上昇した。この結果を受け、FRBの早期利上げ観測が強まったことから米金利の急上昇とともにドル円は買われ、115円台後半まで上昇。買い一巡後は週末ムードが広がる中、方向感乏しく推移し、最終的に先週比ほぼ変わらずの115.21で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.680-27.880
今週は春節明けの月初であり、輸出企業の動向は鈍いとみられ、株価の動向に左右されやすい展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：114.00-115.80
先週は雇用統計の結果を受け、早期利上げ期待から米長期金利が上昇している。今週は米1月CPIの発表を控えているが、前月の約39年半ぶりに達した+7.0%をさらに上回る市場予想となっている。3月の利上げは既に織り込まれているが、さらなる早期利上げ期待の高まりには警戒したい。

今週の予定

2/7 (MON)	
2/8 (TUE)	米12月貿易収支
2/9 (WED)	
2/10 (THU)	米1月CPI
2/11 (FRI)	台湾1月CPI、台湾1月貿易収支、米2月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。